

背景

学校で、公園で、集客施設でと、あらゆる場面で個人のプライバシーが優先されすぎる世の中になった。その結果、人と人との関係が希薄になり、安心していきいきとした暮らしがしにくくなっているのではないか。このことに対する反省から、以下のようなことが求められている。

シニア層 は、75歳を過ぎると、外出するのが億劫になり、病気にもなる。また、1人暮らしになる場合もある。定年退職した方達が、例えばゴルフなど趣味の集まりの場を作ったり、専業農家として生活したり、老人憩いの家などをもっと活用できるようにしたりすることにより、「75歳になっても友達100人」を実現できれば、シニア層になってもいきいきと暮らし続けられるのではないか。

子育て世代 は、核家族が多く、同じ年齢の子どもを持つ親同士の集まりがあってもそれ以外の世代とは交流する機会が少ない。夫婦が昼間働きに出ている間、昔のように、近所のおじいちゃんやおばあちゃんが孫の面倒を見てくれたり、孫を連れていける場所が必要ではないか。そんな「見守り」の中で、子どもが、親が、おじいちゃんやおばあちゃんがいきいきと暮らし続けられるコミュニティが必要である。

両者をつなぐ仕組みとして、シニア層が持っている経験や知恵を若い子育て世帯に伝える「場」(=「花」)が必要ではないか。例えば、公園などではよくラジオ体操が行われているが、このような身近なことを教えあってもよい。また、ラジオ体操は「そこに行けば必ず人がいる」という雰囲気づくり・場づくりにもつながる。このように、花の蜜を求めて集まってくる蝶(大人)や、葉っぱに集まってくる蝶の幼虫(子ども)・さなぎ(若者)のように、自然と人が集まってくる「花」を町内にたくさん咲かせよう。そうなれば、町全体が花園になる。次世代を担う子どもから豊かな経験を持つシニア層までが交流し、町民一人ひとりが住み続けたいと思う花園のまちを目指そう。

提案 「様々な花園づくり・・・」

■ 人々が集まり、つながる拠点をつくる

- ・長久手古戦場駅周辺を、シニア層が暮らせる居住機能、役所等の公共機能、医療機能(複数の診療科がある医療モール)の集積を図る。また、町外の方たちも集まれるような映画館や商業施設も必要である。ここに来れば何でも揃い、安心できるという拠点を形成する。
- ・リニモ各駅を中心にバス交通の接続を改善すれば、町内の様々な場所から行き来でき、交通結節点に

もなる。

- ・周辺には、桜で有名な古戦場公園、池や川もあり、これらを活用しながら四季を感じられる綺麗な町並みを形成する。

■ 地域の花園コミュニティを咲かす

- ・お年寄りが将棋や囲碁、手芸などの趣味を楽しむことができ、誰かが先生として得意なことを教えあうことができ、子どもを連れた親や孫を連れたおじいちゃんやおばあちゃん、あるいは少し大きくなった子どもたちなど、どの世代でも会話をしながら楽しめるような、365日24時間いつでも自由に気軽に集まれる「たまり場」＝「花園」を各地域につくる。
- ・そのため、各地域にある老人憩いの家や児童館、公民館が集まっている地域の中からモデル地域として一箇所を選定し、実験的に「花園」の運営をスタートさせる。
- ・また、「花園」を拠点として、防犯に関する講習会を開いたり、みんなで犯罪などの危険箇所をチェックする「まち点検」を行うことで、地域で支えあい犯罪ゼロのまちを目指す。
- ・将来的には、町内にたくさんの「花園」をつくり、「花園」にきた人同士が横でつながり友達の輪を広げていく。友達100人つくることを目標とした、長久手の友達100人計画「長ともの輪」を目指す。

■ 今ある自然・モノを活用する

- ・長久手町には自然や水、川、池が多くあり、そういった所で親しめるような拠点をつくる。
- ・子育て支援グループや福祉ボランティアグループなど活動分野を超えた住民グループ同士の横のネットワークを充実させる。
- ・人材バンクは、町の事業として人材バンクリストが既にあるが、周知されていないため、多くの人に利用しやすいようにする。
- ・学校の空き教室を利用した成人学級などを行い、上記人材バンクや名人・オタク発掘(※)などのツールを活用し、様々な学級や講座を通じて、人と人との交流を助長する。

■ 里山をおもてなしに活用する

- ・COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)の開催地が名古屋市に決定した。愛・地球博が開催された長久手町では、町内東部地域の貴重な里山をPRの素材として積極的に活用し、COP10に訪れた人々にここを訪れてもらう。

■ 花園をつなぐ輪(和)をつくる

- ・リニモの駅とNーバスを双方向で接続し、病院、買い物施設、学校といったいろんな施設をNーバスで接続すれば、子どもからお年寄りまでまちを安心して移動でき、人と人がつながる。

期待される効果

このような「花園づくり」を続けることにより、以下のようなストーリー展開を期待している。

- ・“幼虫” (=子ども)や“さなぎ” (=若者)は、多くの人と交流できる場「おいしいたくさんの葉っぱ」があると、健やかに成長する。幼虫の頃から多くの人にかわいがって育てられ、“成虫” (=大人) になるまで葉っぱや茎の上でじっくりと経験した“さなぎ” たちは、やがて“蝶” になり、一度は長久手を巣立っていくものの、大人になった時、「花園」が忘れられずに再び長久手に舞い戻り、新たな家庭を持ち、卵を産む。
- ・そして、年月を経て、時間に余裕ができたときは、今度は自分が「花園」で活躍し、“幼虫” や“さなぎ” 達を見守り育んだり、仲間を増やす。仲間の輪が広がれば、そこから刺激を受け、こうした交流が生きがいになり、“シニア蝶” として他の“蝶” 達のお手本にもなる。
- ・まち全体が「花園」になれば、“幼虫” “さなぎ” “蝶” 達が常に「あいさつ」「ありがとうの言葉」「あそび」を交わすことができる。さわやかな風が流れ、風にそよがれた“蝶” 達はうれしそうに踊っている、そんな「花園のまち」になることを期待している。

